

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	解剖生理学 I	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	佐々木順承		
授業概要	人体の構造と機能について、器官系統別に学ぶ内容とする。病気による症状や徴候といった病態や検査データ、薬の効果の理解につながる人間の体の構造や機能としてとらえられる内容とする。解剖生理学 I では、身体を構成する細胞や組織、生命の維持にかかわる器官、体の支持や運動にかかわる器官を主に学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	体表からみた人体の構造 人体内部の腔と膜				講義
2	素材からみた人材 1)細胞の構造と機能 2)細胞を構成する物質とエネルギーの生成 3)細胞の増殖と染色体				講義
3	分化した細胞がつくる組織 1)上皮組織 2)筋組織 3)結合組織 4)神経組織				講義
4	栄養の消化と吸収 1)口・咽頭・食道の構造と機能				講義
5	栄養の消化と吸収 2)腹部消化管の構造と機能 (1)胃 (2)小腸 (3)大腸				講義
6	栄養の消化と吸収 3)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4)腹膜と腸間膜				講義
7	呼吸と血液のはたらき 1)呼吸器の構造 2)呼吸の機能				講義
8	呼吸と血液のはたらき 3)血液の組成と機能				講義
9	血液の循環とその調節 1)循環器系の構成 2)心臓の構造と機能				講義
10	血液の循環とその調節 4)末梢循環系の構成 5)血管の構造 6)肺循環・体循環の動脈と静脈				講義
11	血液の循環とその調節 7)血液の循環の調節 8)リンパとリンパ管				講義
12	身体の支持と運動 1)骨の形態・構造と機能 2)骨の連結 3)骨格筋の構造・作用と神経支配				講義
13	身体の支持と運動 4)上肢の骨格と筋				講義
14	身体の支持と運動 5)下肢の骨格と筋				講義
15	身体の支持と運動 6)頭頸部の骨格と筋 7)筋の収縮				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	佐々木順承		
授業概要	人体の構造と機能について、器官系統別に学ぶ内容とする。病気による症状や徴候といった病態や検査データ、薬の効果の理解につながる人間の体の構造や機能としてとらえられる内容とする。解剖生理学Ⅱでは、物質の流通や排泄、情報の受容と情報の伝達・処理、内部環境の調節にかかわる器官を主に学ぶ内容とする。				
授業内容	授業内容				授業方法
1	情報の受容と処理 1)神経系の構造と機能 2)脊髄と脳				講義
2	情報の受容と処理 3)脊髄神経と脳神経				講義
3	情報の受容と処理 4)脳の高次機能 5)運動機能と下行伝導路 6)感覚機能と上行伝導路				講義
4	情報の受容と処理 7)眼の構造と視覚 8)耳の構造と聴覚・平衡覚 9)味覚と嗅覚 10)疼痛				講義
5	内蔵機能の調節 1)自律神経による調節				講義
6	内蔵機能の調節 2)内分泌系による調節 3)全身の内分泌腺と内分泌細胞				講義
7	内蔵機能の調節 1)ホルモン分泌の調整				講義
8	血液・造血機能 1)血液の構造と機能 2)造血機能				講義
9	体液の調節と尿の生成 1)腎臓の構造と機能 2)尿の貯蔵と排尿のしくみ				講義
10	体液の調節と尿の生成 3)体液のはたらきと調節				講義
11	外部環境からの防御 1)皮膚の構造と機能 2)代謝と運動 3)体温とその調節				講義
12	外部環境からの防御 3)生体の防御機構				講義
13	外部環境からの防御 4)生体の防御機構				講義
14	生殖・発生と老化のしくみ 1)男性生殖器 2)女性生殖器				講義
15	生殖・発生と老化のしくみ 3)受精と胎児の発生 4)成長と老化				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	形態機能学Ⅰ	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	小川実穂		
授業概要	疾病の予防や疾病からの回復ならびに健康の維持増進等に向けた援助を実践するためには、「正常な人体の緒器官の形態と機能」についての知識が必要である。形態機能学Ⅰでは、看護者がなぜそれらの知識を必要とするのかを理解しながら、内部環境の恒常性と恒常性維持のための物流と調節機構について学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	オリエンテーション いのちを支えるからだの仕組み 1)体液(細胞内液、間質液、血漿)				講義
2	いのちを支えるからだの仕組み 2)体液(水分出納)				講義
3	いのちを支えるからだの仕組み 3)血圧				講義
4	いのちを支えるからだの仕組み 4)心臓収縮の機構				講義
5	いのちを支えるからだの仕組み 5)脈拍				講義
6	内部環境の恒常性の維持 1)酸素と二酸化炭素の恒常性				講義
7	循環機能の仕組みと看護				講義
8	内部環境の恒常性の維持 2)血糖値の恒常性				講義
9	内部環境の恒常性の維持 3)水素イオン濃度(PH)の恒常性				講義
10	内部環境の恒常性の維持 4)体温の恒常性				講義
11	調節機構 1)神経性調節と体液性調節				講義
12	調節機構 3)自律神経系による内部環境の維持				講義
13	調節機構 5)ホルモンによる内部環境の維持				講義
14	いのちを支える体のしくみと看護				講義
15	内部環境の維持と看護				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	形態機能学Ⅱ	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	小川実穂/中ノ森 樹		
授業概要	<p>疾病の予防や疾病からの回復ならびに健康の維持増進等に向けた援助を実践するためには、「正常な人体の緒器官の形態と機能」についての知識が必要である。形態機能学Ⅱでは、看護者がなぜそれらの知識を必要とするのかを理解しながら、生きていることを支える日常生活行動(食べる、トイレに行く、動く)について学ぶ内容とする。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	何のための生活行動かを考える				講義
2	食べるという日常生活行動のしくみ① 食欲 食行動				講義
3	食べるという日常生活行動のしくみ② 咀嚼し味わう				講義
4	食べるという日常生活行動のしくみ③ 飲み込む(嚥下)				講義
5	食べるという日常生活行動のしくみ④ 消化と吸収				講義
6	食べるという日常生活行動のしくみ⑤ 何を食べるか 食べることを支援する看護				講義
7	トイレに行くという日常生活行動のしくみ① 排尿 尿の生成				講義
8	トイレに行くという日常生活行動のしくみ② 体液量調節の機構				講義
9	トイレに行くという日常生活行動のしくみ③ 便意 排便				講義
10	トイレに行くということを支援する看護				講義
11	動くという日常生活行動のしくみ① 姿勢 神経から筋への指令と筋の収縮				講義
12	動くという日常生活行動のしくみ② 意図的でない運動と意図的な運動				講義
13	動くという日常生活行動のしくみ③ 骨格・骨格筋・関節				講義
14	動くという日常生活行動のしくみ④ 日常生活での基本的動き				講義
15	動くということを支援する看護				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	形態機能学Ⅲ	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	青木記代美		
授業概要	<p>疾病の予防や疾病からの回復ならびに健康の維持増進等に向けた援助を実践するためには、「正常な人体の緒器官の形態と機能」についての知識が必要である。形態機能学Ⅲでは、看護者がなぜそれらの知識を必要とするのかを理解しながら、生きていることを支える日常生活行動(息をする、話す、眠る、お風呂に入る)について学ぶ内容とする。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	息をするという日常生活行動のしくみ① 息を吸う・吐く				講義
2	息をするという日常生活行動のしくみ② 呼吸運動の神経支配 肺気量				講義
3	息をするという日常生活行動のしくみ③ ガス交換				講義
4	息をするということを支援する看護				講義
5	話す・聞くという日常生活行動のしくみ① 声を出す				講義
6	話す・聞くという日常生活行動のしくみ② 聞く 言葉				講義
7	話す・聞くを支援する看護				講義
8	眠るという日常生活のしくみ① からだのリズム				講義
9	眠るという日常生活のしくみ② 眠り				講義
10	眠るという日常生活のしくみ③ 眠りの生理				講義
11	眠るを支援する看護				講義
12	お風呂に入るという日常生活行動のしくみ① 垢を落とす				講義
13	お風呂に入るという日常生活行動のしくみ② 皮膚と附属物				講義
14	お風呂に入るという日常生活行動のしくみ③ 皮膚と粘膜				講義
15	お風呂に入るを支援する看護				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【人体の構造と機能】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	生化学	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	三浦 智		
授業概要	人間は、生体内で様々な現象により生命を維持している。生体内でおこる様々な現象を分子レベルで化学反応として学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	生化学を学ぶための基礎知識 代謝の基礎と酵素・補酵素				講義
2	糖質の構造と機能 糖代謝				講義
3	脂質の構造と機能 脂質代謝				講義
4	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝				講義
5	ポルフィリン代謝と異物代謝				講義
6	遺伝子と核酸 遺伝子の複製・修復・組換え				講義
7	転写 シグナル伝達				講義
8	がん がん細胞の特徴 細胞周期とがん がん遺伝子 がん抑制遺伝子				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	病理学	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	関谷 栄		
授業概要	病気の成り立ちに関する科学的知識を学ぶことで病気を科学的に理解し、老化現象と死についても学ぶ。生体に起きた状態(傷害・循環障害・代謝障害・腫瘍など)に対する基本的な反応(細胞・組織の修復、炎症、止血、免疫)を学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	病理学とは何か ①病気の原因(内因・外因・公害病・医原病・職業病) ②病気の分類				講義
2	細胞・組織の障害と修復 1)細胞の損傷と適応 2)組織の修復と創傷治癒				講義
3	循環障害 1)循環系の概要 2)循環器系の障害による症状と病態				講義
4	1. 炎症の原因としくみ 2. 免疫のしくみと抗体 3. アレルギーと自己免疫疾患 4. 移植と再生医療				講義
5	代謝障害 1)脂質代謝障害 2)タンパク代謝障害 3)糖質代謝障害(糖尿病) 4)その他の代謝障害				講義
6	先天異常と遺伝子の異常 1)先天異常 2)遺伝子の異常と疾患				講義
7	腫瘍 1)腫瘍の定義と分類 2)腫瘍の発生病理 3)腫瘍の診断と治療				講義
8	老化 1)個体の老化と老年症候群 2)加齢に伴う諸臓器の変化 個体の死 1)死の判定と死の究明 2)脳死と植物状態 3)尊厳死と安楽死 4)緩和医療				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	治療論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	新井克典/関谷 栄		
授業概要	病気の診断と検査の基本について学び、薬物療法、食事療法、運動療法、放射線療法、手術療法、輸血療法などについて学ぶ内容とし、診療の補助技術の知識につなげる。				
回	授業内容				授業方法
1	薬物療法とは 経口剤、外用薬、注射剤の適用と特徴(吸収経路、作用時間の違い) 輸液療法(末梢静脈・中心静脈)				講義
2	食事療法 食事療法が必要な疾患 食事療法の適用と効果				講義
3	運動療法 運動療法が必要な疾患 運動療法の適用と効果				講義
4	リハビリテーション療法 リハビリテーション療法の目的と効果				講義
5	放射線療法 内視鏡的治療				講義
6	手術療法が必要な疾患・適用と効果				講義
7	手術療法 合併症とその治療				講義
8	輸血療法 輸血療法の適用と効果				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	疾病論 I	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	鎌仲正人/循環器医師/新井克典		
授業概要	疾患と診療・検査を学ぶことで、画像を読むことができ、患者に行われる治療方針や治療内容を理解できる内容とする。疾病論 I は、呼吸、循環、血液に関する疾患を学ぶ。				
回	授業内容			授業方法	講師名
1	呼吸機能の構造と機能 呼吸機能障害の症状 ①痰 ②咳嗽 ③呼吸困難 ④胸痛 ⑤チアノーゼ ⑥いびき ⑦声の異常			講義	鎌仲
2	検査と診断 ①血液検査 ②喀痰検査 ③胸水検査 ④内視鏡検査 ⑤生検 ⑥画像検査(X線検査・超音波検査・MRI・PET) ⑦呼吸機能検査			講義	鎌仲
3	呼吸器疾患の治療 ①酸素療法 ②手術療法 ③人工呼吸療法(気管切開含む) ④胸腔ドレナージ			講義	鎌仲
4	呼吸器疾患の病態と診断・治療 ①過換気症候群 ②気管支拡張症 ③気管支喘息 ④肺血栓塞栓症			講義	鎌仲
5	呼吸器疾患の病態と診断・治療 ①肺炎 ②呼吸不全 ③肺腫瘍			講義	鎌仲
6	循環器の構造と機能 循環器機能障害の症状 ①胸痛 ②動機 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ ⑥めまい・失神 ⑦ショック			講義	循環器 医師
7	検査と診断 循環器特有の検査(CT・MRI・シンチグラフィ・心電図) 診断方法			講義	循環器 医師
8	循環器疾患の治療(外科的治療・内科的治療)			講義	循環器 医師
9	心臓疾患の病態と診断・治療 虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞) 心不全 心筋症			講義	循環器 医師
10	心臓疾患の病態と診断・治療 ①心タンポナーデ ②不整脈 血管系疾患の病態と診断・治療 ①大動脈瘤・大動脈解離 ②深部静脈血栓症			講義	循環器 医師
11	血液の成分と機能 造血のしくみ 血液の異常と症状 ①貧血 ②発熱 ③出血傾向 ④リンパ節腫脹・脾腫			講義	新井
12	検査と診断 1)末梢血検査 2)骨髄穿刺・骨髄生検 3)出血傾向検査 4)リンパ節生検 5)細胞表面腫瘍マーカー検査 6)染色体検査 7)遺伝子検査			講義	新井
13	血液疾患や造血器の治療(内科的治療) ①化学療法 ②支持療法 ③造血幹細胞移植 ④分化誘導療法 ⑤分子標的療法 ⑥遺伝子治療			講義	新井
14	造血器腫瘍の病態と診断・治療 ①白血病 ②悪性リンパ腫 ③骨髄腫			講義	新井
15	出血性疾患の病態と診断・治療 ①紫斑病 ②血友病 ③播種性血管内凝固症候群			講義	新井
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 医学書院:系統看護学講座 呼吸器 循環器 血液・造血器				

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年後期	授業形態	講
科目名	疾病論Ⅱ	単位数	1単位	時間数	30日
		担当教員	齋藤 燈/黒巢恵美/橋本和		
授業概要	疾患と診療・検査を学ぶことで、画像を読むことができ、患者に行われる治療方針や治療理解できる内容とする。疾病論Ⅱは、消化器、腎・泌尿、女性生殖器に関する疾患を				
回	授業内容				授業方法
1	消化機能の構造と機能 消化機能障害の症状				講義
2	検査と診断 ①肝機能検査 ②膵外分泌機能検査 ③内視鏡検査 ④超音波検査 ⑤肝生検 ⑥放射線検査 ⑦CT・MRI ⑧シンチグラフィ ⑨PET				講義
3	消化器疾患の治療 ①薬物療法 ②栄養療法・食事療法 ③手術療法 ③放射線療法				講義
4	消化器疾患の病態と診断・治療 ①食道がん ②胃十二指腸潰瘍 ③胃がん ④潰瘍性大腸炎				講義
5	消化器疾患の病態と診断・治療 ①クローン病 ②腹膜炎 ③虫垂炎 ④腸閉塞症 ⑤ヘルニア ⑥肝炎 ⑦肝硬変症 ⑧肝不全 ⑨肝がん				講義
6	消化器疾患の病態と診断・治療 ①胆石症 ②胆嚢炎・胆管炎 ③胆嚢がん・胆管がん ④膵炎 ⑤膵臓がん				講義
7	腎臓・泌尿器の構造と機能 腎臓・泌尿器機能障害の症状				講義
8	排泄機能障害の検査 ①腎生検 ②静脈性尿路造影 ③画像検査 腎機能検査 ①PSP 試験 ②Fishberg濃縮試験 ③糸球体濾過量(GFR)				講義
9	排泄機能障害のある疾患の治療 透析①急性期持続血液濾過透析 ②維持透析 ③腹膜透析(CAPD) 腎移植 手術(①切除術 ②尿管ストーマ造設術)				講義
10	排泄機能障害の疾患 ①腎・尿路の炎症 ②腎・尿路の腫瘍 ③尿路の通過障害				講義
11	男性生殖器の疾患 ①前立腺腫瘍(前立腺肥大症・前立腺がん) ②精巣腫瘍				講義
12	女性生殖器の構造と機能 症状とその病態 ①ショック ②出血 ③帯下 ④疼痛 ⑥発熱 ⑦下腹部膨満・腫瘤感 ⑧外陰部掻痒感 ⑨自律神経症状・不定愁訴 ⑩リンパ浮腫				講義
13	診察・検査 ①診察・治療器具 ②理学的検査③病理検査 ④細菌・ウイルス・原虫検査 ⑤画像検査⑥腫瘍マーカー ⑦妊娠検査 ⑧内視鏡検査 ⑨染色体検査・遺伝子検査				講義
	治療・処置 ①膣洗浄 ②膣タンポン ③腹腔穿刺 ④ダグラス窩穿刺 ⑤薬物療法(ホルモン療法・感染症薬物療法・悪性腫瘍の薬物療法) ⑥手術 ⑦避妊				講義
14	生殖器の疾患 ①外陰の疾患(バルトリン腺炎・嚢胞)②膣の疾患 ③子宮の疾患 ④卵管・卵巣の疾患(炎症・がん)				講義
15	生殖器の疾患 ⑤骨盤内炎症性疾患 ⑥乳房の疾患 ⑦機能的疾患(月経異常・更年期 障害・不妊症・不育症) ⑧性感染症				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する				
教科書	資料 医学書院:系統看護学講座 消化器 腎・泌尿器 女性生殖器				

義
時間
法
療内容を学ぶ。
講師名
齋藤
黒巢
橋本
。

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年後期	授業形態	講
科目名	疾病論Ⅲ	単位数	1単位	時間数	30日
		担当教員	草鹿 元/矢作 毅 宮本 智/四宮敬史		
授業概要	疾患と診療・検査を学ぶことで、画像を読むことができ、患者に行われる治療方針や治療理解できる内容とする。疾病論Ⅲは、脳神経・感覚器・運動器に関する内容を学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	脳・神経の構造と機能 脳・神経機能障害の症状				講義
2	検査と診断 ①画像診断 ②電気生理学的検査 ③脳脊髄液検査・生検				講義
3	脳・神経の治療・処置 ①外科的治療法 ②内科的治療法				講義
4	中枢神経系の疾患と診断と治療 ①脳血管障害(脳出血・脳梗塞) ②脳神経系の感染症 ③頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア脱髄・変性疾患(多発性硬化症・パーキンソン病)				講義
5	中枢神経系の疾患と診断と治療 末梢神経系の疾患				講義
6	運動器の構造と機能 ①骨 ②関節 ③神経と筋肉 運動器障害の症状				講義
7	検査 ①X線検査 ②MRI ③超音波検査 ④造影検査 ⑥シンチグラフィ ⑧筋電図 など				講義
8	治療・処置 ①保存療法 ②理学療法と作業療法 ③手術療法 ④義肢と装具 運動器疾患の病態と診断・治療 ①骨折・脱臼 ③捻挫・打撲 ④損傷 ⑤炎症性疾患 ⑥腫瘍 など				講義
9	疾患と診断・検査・治療法 ①神経の疾患 ②上肢・上肢帯および下肢・下肢帯の疾患 ③脊椎の疾患 など				講義
10	耳鼻咽喉および口腔の構造と機能 耳・鼻・口腔・唾液腺・咽頭にあらわれる症状 口腔および耳鼻咽喉の検査と診断				講義
11	耳・鼻・咽頭・喉頭の疾患 ①外耳・中耳・内耳・鼻腔・副鼻腔の疾患 ②メニエール症 ③難聴 ④口腔疾患 ⑤咽頭疾患 ⑥喉頭疾患				講義
12	口腔の疾患 ①歯肉炎・う歯 ②口腔・口腔粘膜の疾患 ③唾液腺の疾患				講義
13	眼の構造と機能 視機能障害の症状				講義
14	眼の検査 ①視力検査 ②屈折検査 ③眼圧検査 ④眼底検査など 眼の治療 ①点眼 ②洗眼 ③眼帯 ④凝固 ⑤屈折矯正 ⑥視野強矯正				講義
15	眼の疾患 ①眼瞼・結膜・角膜の疾患 ②網膜・硝子体の疾患 ③白内障・緑内障 ④眼球・眼窩の疾患 ⑤視神経の疾患				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する				
教科書	資料 医学書院:系統看護学講座 脳・神経 運動器 耳鼻咽喉 眼				

義
時間
景内容を
講師名
草鹿
矢作
矢作
矢作
矢作
四宮
四宮
四宮
宮本
宮本
宮本
。

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	微生物学	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	三浦 智		
授業概要	病原微生物の基本構造や機能、感染のしくみと感染症について学ぶとともに、病原微生物の侵入により生じる生体の反応についても学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 微生物とは何か 1)微生物の種類と特徴 2)微生物の役割 2. 微生物学の歩み 3. 微生物の性質 (1)細菌 (2)真菌 (3)原虫 (4)ウイルス				講義
2	1. 感染と感染症 1)微生物感染の機構 (1)感染とは何か(2)生体(宿主)と病原体(感染源) 2)感染の成立から発症・治癒まで (1)病原体の侵入と感染経路 (2)侵入から発症まで (3)発症後の経過 3)微生物感染の機構 (1)細菌 (2)真菌 (3)原虫 (4)ウイルス				講義
3	2. 感染に対する生体防御機構(免疫のしくみ) 1)自然免疫 2)獲得免疫 3)粘膜免疫 4)感染の徴候と症状				講義
4	1. 感染源・感染経路からみた感染症 1)経口感染 2)経気感染 3)接触感染 4)経皮感染 5)母児感染 2. 滅菌と消毒 1)バイオハザードとバイオセーフティ 2)滅菌消毒の意義と定義 3)滅菌法 4)濾過除菌 5)消毒と消毒薬				講義
5	3. 感染症の検査と診断 1)病原体を検出する方法 (1)分離培養と形態学的検査 (2)遺伝学的検査 (3)病原体抗原検査法 2)生体の反応から診断する方法 (1)抗体検査(血清診断) (2)細胞性免疫による診断				講義
6	1. 病原細菌と細菌感染症				講義
7	1. 病原真菌と真菌感染症 2. 病原原虫と原虫感染症				講義
8	1. 病原ウイルスとウイルス感染症 1)DNAウイルス 2)RNAウイルス 3)ウイルスの臨床的分類				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	臨床薬理学	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	堂前真理子		
授業概要	薬理作用の基礎知識に基づき、生体機能の正常機能と病態について理解し、治療薬の作用を説明できるように学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	薬理学とは 薬に関する基礎知識				講義
2	生体機能と薬 ①投与経路と吸収 ②血中濃度曲線 ③分布・代謝・排泄 ④繰り返し投与の血中濃度				講義
3	①生体の調節機能と薬物 ②薬物の相互作用 ③小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法				講義
4	末梢神経系作用薬の特徴と薬効 ①自律神経系作用薬 ②筋弛緩薬 ③局所麻酔薬				講義
5	中枢神経系作用薬の特徴と薬効 麻酔薬 催眠薬				講義
6	中枢神経系作用薬の特徴と薬効 抗認知症薬 脳循環・代謝改善薬 向精神薬 頭痛治療薬				講義
7	心・血管系作用薬の特徴と薬効 降圧剤 強心薬 利尿薬 末梢血管拡張剤 血液作用薬の特徴と薬効 造血薬 抗血栓薬 止血薬				講義
8	呼吸器系作用薬の特徴と薬効 気管支拡張薬 気管支喘息治療薬 呼吸促進剤 鎮咳薬 去痰剤				講義
9	消化器系作用薬の特徴と薬効 消化性潰瘍治療薬 健胃消化薬 胃腸機能調整薬 肝疾患・胆道疾患・膵臓疾患治療薬				講義
10	消化器系作用薬の特徴と薬効 腸疾患に作用する薬 肝疾患・胆道疾患・膵臓疾患治療薬				講義
11	内分泌・代謝系作用薬の特徴と薬効 女性ホルモン剤 甲状腺疾患治療薬 糖尿病薬治療薬 脂質異常症治療薬 痛風・高尿酸血症治療薬				講義
12	抗感染症薬の特徴と薬効 抗菌薬 抗ウイルス薬 予防接種薬				講義
13	抗腫瘍薬(抗がん剤)の特徴と薬効				講義
14	抗炎症薬・解熱鎮痛薬の特徴と薬効 ステロイド製剤 非ステロイド製剤 解熱鎮痛剤 抗アレルギー薬・免疫抑制剤の特徴と薬効				講義
15	救急時の薬物 ビタミン製剤 輸液・栄養製剤 毒物と解毒薬 消毒薬				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【健康支援と社会保障制度】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	保健統計	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	渡邊亮一		
授業概要	看護の根拠となる統計について理解し、統計データを収集し分析できる力や統計を読み解く力をつける内容とし、主な保健統計や調査について学び、保健・医療・福祉の現状と関連させて捉えられる内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	統計学入門 ①統計学と医療・看護のかかわり ②記述統計と推測統計 ③調査・研究と統計学				講義
2	統計データの種類とまとめ方 統計データのグラフ表示				講義
3	確率と分布 ①確率 ②順列・組み合わせ ③確率分布				講義
4	母集団・標本と推定				講義
5	各種検定				講義
6	各種検定				講義
7	保健統計の基礎(統計の種類と統計の意味) ①人口動態統計 ②人口静態統計				講義
8	その他のおもな調査 ①国民生活基礎調査 ②患者調査 ③国民健康・栄養調査 ④食中毒統計・感染症発生動向調査 ⑤生命表				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門基礎分野【健康支援と社会保障制度】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	健康論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	岩瀬依理子		
授業概要	健康とは何か、健康を維持・増進するとはどういうことか、小児・成人・高齢者といった発達段階における健康とは何かを理解し、性・生殖に関する健康、心の健康、家庭・地域の健康、暮らしと健康について学ぶ内容とする。また、健康課題と社会政策を関連付けて考えられ、健康行動理論、危機理論、ヘルスプロモーションに関する理論を、健康教育を通して実践できる内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	健康とは何か ヘルスプロモーションの基本的命題と概念 ヘルスプロモーションの国際的動向				講義
2	ヘルスプロモーションと健康政策 生活の場・暮らしの中のヘルスプロモーション ヘルスプロモーションと看護				講義
3	ヘルスプロモーションの理論 健康教育に必要な考え方・理論 健康行動に必要な理論				講義
4	ヘルスプロモーションの理論 健康教育に必要な考え方・理論 健康行動に必要な理論				講義
5	生活習慣におけるヘルスプロモーション ライフステージにおけるヘルスプロモーション ①小児 ②成人 ③高齢者				講義
6	ライフステージにおけるヘルスプロモーション ④女性 ⑤精神 ③地域				講義
7	健康教育・患者教育・ヘルスプロモーションの企画				講義 演習
8	健康教育・患者教育・ヘルスプロモーションの実施				講義 演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				